

エネルギー問題にどう向き合うか

2014年8月8日

クローバー・アセットマネジメント株式会社

代表取締役社長 多根 幹雄

ことしは冷夏の予想に反し、梅雨が終わるやいなや猛暑の襲来となりました。こう暑いと夏の電力が心配になってきますね。例年、高校野球のころに電力不足が話題になるのですが、特に今年は原発が全く稼働しないはじめての夏だということで、一部のメディアを中心に、原発推進への論調が活発化しているような気がします。一方、指定廃棄物最終処理問題で、日本百名水の町、栃木の塩谷町が候補になったということで、反対運動も激しさを増してきました。皆さんはこの原発やエネルギーの問題をどうお考えでしょうか。

先月のレポートでもご紹介したスイスの電気料金について、今回は詳しくご説明しましょう。私がスイス・ジュネーブに住んでいた2002年の4月、変わった内容の書類が電力会社（ジュネーブ産業公社）から届きました。慣れないフランス語に四苦八苦しながら読んでみると、どうやら電力が選べるらしいのです。手紙の中味はこうでした。選択肢は、「青」、「黄」、「緑」、「混合」の4つ。「青」は100%水力発電で、電気料金が総額から3フラン安くなります。「黄」はジュネーブ州産のエネルギー。内容は州内の中小の水力発電と、ごみ処理による発電で、こちらは人手がかかるので6フラン高。「緑」は太陽光と風力発電など100%再生エネルギーで、ぐっと高く21フランのプラス。（ただし、使用量に0.01フランをかけたものを消費者と電力会社がエコ基金として積み立てる）。「混合」は化石燃料や原子力で、月3.9フラン安くなります。ちなみに、無回答ならば青の水力発電になるということでした。

電気そのものに、それぞれ名前や色がついているわけではありませんが、個々の家庭が、自分の意思を電力源に反映できるということと、さらに意義深いことは、その選択の責任を自ら取る、つまりその分の費用を負担することになっていることだと思います。日本でも、例えば原発推進派の人達が、「私は原発が安全で良い電力源だと思うから、私の街に原子力発電所が出来てもかまわない。指定廃棄物ももちろん引き受けるよ」とか、一方反対派が、「私は原発に反対なので、少々電力が高くなっても構わない」とか、それぞれ、そこまで責任ある主張をするならば、無意味な議論が減って、本格的な議論に発展してくれることでしょうね。

さてファンドの方ですが、7月は順調に基準価額を伸ばし、お陰さまでそれぞれ最高値を更新しました。8月については、ウクライナ、シリア、ガザそれぞれの情勢や、アメリカの金融緩和の行方を注視する必要がありますが、ちょうど8月に入って市場の調整があったこともあり、絶好の買い場を提供してくれています。特に出遅れ気味の日本市場の今後に期待したいと思っています。

セミナーのご案内

東京
銀座

澤上 篤人 ほろ酔いトーク

【日時】 2014年8月22日(金)18:00~20:00(開場17:30)

【会場】 ポーラ銀座ビル 4Fミキシムギンザ内
東京都中央区銀座1-7-7

【費用】 1,000円(ドリンク、軽食付き)

【定員】 33名

【講師】 澤上 篤人氏 さわかみ投信会長
多根 幹雄 弊社代表



澤上 篤人氏

大阪
心斎橋

澤上 篤人氏を質問攻めにする90分 今回の辛口挑戦者は中井朱美氏です。

【日時】 2014年9月5日(金)18:30~20:00(開場18:00)

【会場】 メガネの三城 心斎橋本店3Fサロン
大阪市中央区心斎橋筋1-4-26

【費用】 無料(交流会は近くの居酒屋を予定しています。
参加費2,000円程度)

【定員】 40名

【講師】 澤上 篤人氏 さわかみ投信会長
中井 朱美氏 税理士・CFP
多根 幹雄 弊社代表



中井 朱美氏

東京
銀座

私の「長期投資」列伝 ～波乱万丈を乗り越えて～

【日時】 2014年9月19日(金)18:00~20:00(開場17:30)

【会場】 ポーラ銀座ビル 4Fミキシムギンザ内
東京都中央区銀座1-7-7

【費用】 無料(交流会参加の場合は1,000円)

【定員】 33名

【講師】 澤上 篤人氏 さわかみ投信会長
多根 幹雄 弊社代表



多根 幹雄

お申込み

クローバー・アセットマネジメント

03-6262-3923

または

gyoumu@clover-am.co.jp

『時 × 空』投資で創る自由な未来

clover
asset management

■当セミナーでは、クローバー・アセットマネジメント株式会社が設定・運用・販売を行う投資信託の勧誘を行うことがあります。■投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではありません。投資による利益および損失は、すべて受益者(投資者)の皆様に帰属します。■当セミナーで示された数値、見通し等は、講演会開催時点のものであり、その正確性を保証するものではなく、将来予告なく変更されることがあります。将来の企業業績、市場環境の変化および運用成果等を保証するものではありません。

ファンド概況

基準価額	12,412円	純資産総額	660百万円
設定日	2008年4月24日		
信託期間	無期限		
決算日	毎年2月25日		

期間別騰落率(%)

1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	3年	設定来
2.60	8.72	8.05	18.70	47.90	24.12

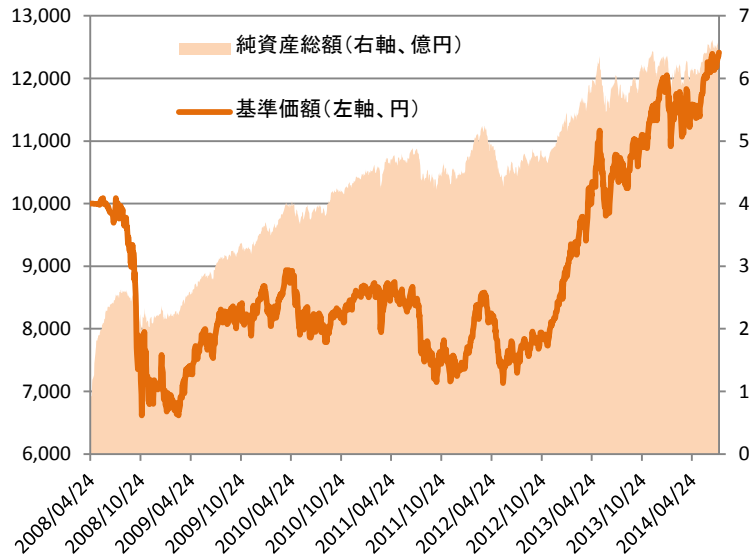
分配金(円)

直近3期を表示

4期 ('12/2/27)	5期 ('13/2/25)	6期 ('14/2/25)	累計
0	0	0	0



基準価額と純資産総額の推移



運用コメント

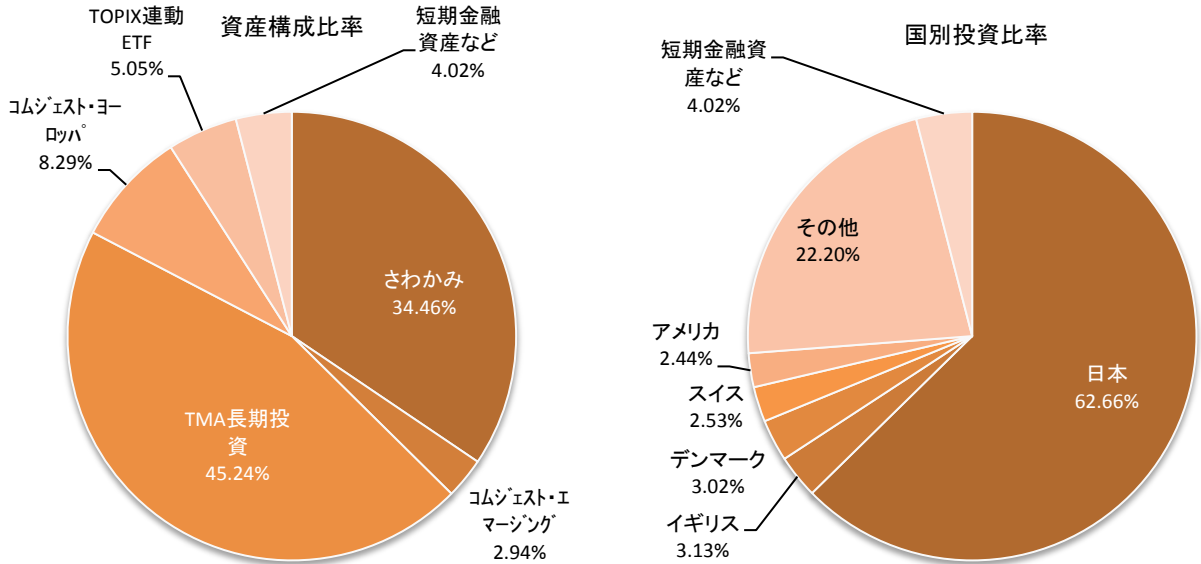
7月の米国株式市場は、緩やかな上昇の後、中旬に高値更新しましたが、その後、FRBの金融緩和からの出口戦略後の早期利上げ懸念、イスラエル情勢の悪化やポルトガル最大手銀行の財政懸念、ウクライナで旅客機撃墜による地政学的リスクの高まりなどの悪材料もあり、わずかな下落となりました。

日本の株式市場は、月初は方向感に欠ける展開が続きましたが、月末にかけての米国市場の下落が続いた時期も、為替の円安方向への動きや、根強い景気回復期待を背景とする押し目買いに支えられ、大きな下振れはありませんでした。月末には約3ヵ月ぶりの水準まで円安が進行し、日経平均株価は15,620.77円と月中の高値水準となり、前月比3.0%高と大幅な上昇で終わりました。

こうした中、らくちんファンドは、さわかみファンド、TMA長期投資ファンドの貢献により2.60%の伸びとなりました。

今後も、米国の金融緩和と出口戦略、ウクライナ、イスラエル等、さまざまな不安要素を背景に、世界的に調整局面があるとは思いますが、日本の株式市場は、順調な企業業績にも支えられ、下落局面での政府系の買い支えもあり、底堅いと考えています。中期的にも、出遅れ感のある日本市場の上昇が期待されると同時に、企業間の業績の優劣がよりはっきりしてくるとの判断から、国内の個別株ファンドに資金を集中させていく予定です。

ポートフォリオの状況



らくちんファンド純資産総額に対する上位組入れ銘柄・比率

(組入銘柄数:227銘柄)

順位	銘柄名	業種	組入比率	組入れファンド名
1	キーエンス	ファクトリーオートメーション用センサの製造	1.85%	TMA長期投資
2	ミスミグループ本社	機械加工製品の企画・販売	1.81%	TMA長期投資
3	トヨタ自動車	世界最大級の自動車メーカー	1.80%	さわかみ
4	シマノ	バイク、釣具、ボート等を製造	1.63%	TMA長期投資
5	エア・ウォーター	総合ガス企業	1.58%	TMA長期投資
6	ブリヂストン	世界最大手のタイヤメーカー	1.54%	さわかみ
7	リンナイ	給湯、厨房、空調等の各機器を製造	1.54%	TMA長期投資
8	日揮	石油精製・天然ガス処理等のプラント製造	1.49%	TMA長期投資
9	大東建託	賃貸仲介、管理、家賃保証等の不動産管理業務や建設業務	1.27%	TMA長期投資
10	NESTLE SA-REGISTERED	世界最大の食品・飲料メーカー(スイス)	1.27%	TMA長期投資

ファンドの特色

①「長期投資」を実現するためのファンドです。

- ・長期的に安定した運用が行われているファンドであり、かつ将来にわたってもその運用が継続される可能性が高い複数のファンドを厳選します。
- ・運用にあたっては、景気変動のサイクルに沿った、アセットアロケーションの切り替え（現預金と組入れファンドの投資比率の変更）を大前提とし、景気サイクルのダイナミズムを先取りする形で、資産配分を行っていきます。
- ・運用にあたり、特定のベンチマークを設けることはしません。また、短期的な市場変動に惑わされることなく、長期的な資産の成長を目指して運用を行います。

②投資対象ファンドを厳選します。

- ・主として日本株、海外株等を投資対象とする投資信託証券を投資対象とします。
- ・ファンドの運用方針が明確で、一貫性があることを重視します。
- ・運用資金が安定的に推移し、顧客から継続して支持を受けていることも重要な条件です。
- ・基準価額の推移が運用方針と整合性を持っているかも重要な判断基準です。

③日本株および海外株へ広く投資します。

- ・投資対象であるファンドを通じて、先進国から新興国まで幅広く世界の株式を中心に投資します。
- ・国や企業の高い成長性を世界に求める一方で、グローバルな成長による恩恵を受ける日本企業へも日本株ファンドを通じて、積極的に投資を行います。
- ・日本株と海外株の投資比率は50:50を当面の運用目標としておりますが、相場環境等により、この比率は大きく変わることがあります。

④ファンド・オブ・ファンズの仕組み

- ・個別の株式、債券等に直接投資するのではなく、株式や債券等に投資している複数の投資信託に投資します。

ファンドにかかわるリスク

当ファンドは、値動きのある国内外の株式等に投資する投資信託証券に投資しますので、基準価額はその影響を受け変動します。

投資信託は預貯金と異なり、投資元本が保証されているものではありません。投資による利益および損失は、すべて受益者（投資者）の皆様に帰属します。

基準価額の主な変動要因としては、価格変動リスク、信用リスク、流動性リスク、為替変動リスク、カントリーリスク等があります。リスクについての詳細は投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

<お申込みの際は、必ず投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください>

ファンドにかかわる費用

購入・換金手数料	ありません
信託財産留保額	ありません
運用管理費用 （信託報酬）	年率0.972%（税抜き0.90%） 組入れ投資信託証券も含めた実質的な負担 年率1.6±0.3%（概算）
その他費用・ 手数料	監査費用、租税、信託事務の処理に要する諸費用等は、純資産総額の年0.108%（税抜0.10%）を上限として投資信託財産から支払うことができます。 *これらの費用は運用状況により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

業務管理部からのお知らせ

残暑厳しい折、皆様におかれましてはお変わりございませんか。

【「毎月つみたてサービス」の再開のお手続きについて】

平成26年7月28日お申し込み分より、過去に「サービスの中止」のお申込みをされた方、3ヶ月連続で引き落としができず中止となっている方の中で、下記の3つを条件として再開のお申込みをお電話（本人確認有）で承れるよう、お手続きの一部簡素化を図ることといたしました。

※現状は、すべて書面（郵送）でのお申込みをいただいております

- ①中止前と同じファンドであること
- ②中止前と同じ引き落とし口座であること
- ③お申込みの直近の引き落とし日から再開であること（再開月の指定はできません）

【ご登録内容の変更はございませんか？】

投資信託説明書（交付目論見書）を皆さまのもとへ確実にお届けするために、ご住所・電話番号・Eメールアドレス等に変更がないか、いま一度ご確認ください。

投資信託説明書（交付目論見書）以外にも、お取引に関する重要な書類や大切なお知らせもございますので、ご登録内容に変更がございましたら、下記の手順にてお手続きをお願いします。

- ①「登録事項変更届」の用紙を弊社ホームページまたはお電話にてご請求ください。
- ②「登録事項変更届」にご記入のうえ、ご返送ください。
※弊社ご登録印であることをご確認ください。
※新住所が記載された「ご本人様確認書類」（運転免許証の写し・住民票等）をご同封ください。
- ③後日、弊社より「登録内容変更の控え」を発送いたしますので、内容をご確認ください。
なお、メールアドレスのご変更は、弊社ホームページまたはお電話でもお手続きを承ります。
<ホームページの場合>
「各種お手続き」→「メールアドレス・レポート受取方法変更」フォームよりご連絡ください。
<お電話の場合>
「メールアドレスが変更となった」旨をお申し出ください。

【毎月つみたてスケジュール】

引落開始月	新規申込・引落口座 変更締切日	引落金額変更・ 中止・再開締切日	引落日	約定日
平成26年9月	受付終了	8月25日（月）	9月5日（金）	9月18日（木）
平成26年10月	9月3日（水）	9月22日（月）	10月6日（月）	10月17日（金）

※毎月つみたてサービスの金額変更・中止・再開については、お電話でも承っております。その際、ご本人様確認（氏名、住所、現在の契約内容等）をいたしますので、予めご準備をお願いいたします。

クローバー・アセットマネジメント株式会社 業務管理部（受付時間：平日9時～17時）

TEL:03-6262-3923 / E-mail: gyoumu@clover-am.co.jp

当資料のご利用にあたっての注意事項

■当資料はクローバー・アセットマネジメント株式会社が運用するファンドの運用状況をお知らせするために作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申込みにあたっては、投資信託説明書（交付目論見書）等をお渡ししますので必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。■投資信託は、値動きのある有価証券等（外貨建資産に投資する場合は、為替変動リスクもあります）に投資いたしますので、基準価額は変動します。したがって、投資者の皆様は投資元本が保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。■運用による損益は、すべて投資者の皆様へ帰属します。■当資料に記載された過去の実績は、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。■当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。■当資料中に示された意見等は、作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更されることがあります。■投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。■投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。■登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。